

## 学校経営のポイント

# 負けてくさらず、明日を目指す人間に

若井 彌一

卒業式のシーズンである。小学校から中学校へ、中学校から高等学校へ、高等学校から大学等へ、あるいは会社等へと、児童・生徒たちは学びや就労の階段の一步を踏み出していく。卒業式は、児童・生徒たちに自覚ある生き方を促す好機である。

### つまずいた児童・生徒への配慮を

この時期、中学校から高等学校へ、高等学校から大学への進路選択に多くの生徒が挑戦しており、すでに結果がほぼ出そろっている。いくつかの志望校を受験して、思いどおりの結果を出すことができた生徒もいれば、反対に、失敗を重ねてうちひしがれている者も相当数存在する。

人生のさまざまな試練を重ねてみれば、高校入学や大学入試など、ひとつの通過点に過ぎないのであるが、入試を初めて経験した段階の生徒たちにとってみれば、受験の成功と失敗は、大きな出来事である。

卒業式では、それなりの結果を出すことができた生徒たちだけを励ます卒業式での校長講話（祝辞）とならないように、好結果を出せずに終わってしまった生徒たちへの配慮を欠かさないようにしたいものである。

大都市部の小学校であれば、いわゆる有名私立中学校や大学の附属中学校・中等教育学校等を受験して、失敗している児童も相当数存在するであろう。これらの児童の存在を忘れないように、気配りのある講話にしたい。進路（進学校）選択の「勝者」だけを想定した校長講話は、一面的であり、つまずいてしまった児童・生徒たちにとっては、心のぬくもりを感じさせない冷たい響きの話となってしまう。

「捲土重来」という言葉がある（「けんどちょう

らい」または「けんどじゅうらい」と読む）。『広辞苑』によれば、捲土は、土煙を巻き上げることを意味し、捲土重来とは、一度破れた者が、再び勢いを盛り返してくることであるという。

中国の唐の詩人であった杜牧（とぼく）が「勝敗は兵家期すべからず、羞（しゅう）を包み恥を忍ぶ是（これ）男兒、江東の子弟才俊多し、捲土重来未（いま）だ知るべからず」と、秦末の武将項羽の自害を悼んだ詩『烏江亭（うこうてい）に題するの詩』が出典である（田所義行「捲土重来」『日本大百科全書』小学館、電子版参照）。

### 捲土重来の気骨を大切に生きる

ひとつの挑戦の失敗を最後と受け止めれば、それ以上のチャレンジはできない。しかし、失敗を恐れて努力することを放棄してしまった人生は、なんとも淋しい。失敗を恐れるよりも、前向きに何度でも挑戦する人生（生き方）のほうが、はるかに積極性に富んでおり、目標をもって楽しさと充実感のある生涯を送ることができる。

平成 20（2008）年のノーベル賞受賞者の人々（小林誠・物理学賞、益川敏英・物理学賞、南部陽一郎・物理学賞、下村脩・化学賞の 4 氏）も、それぞれに話題性に富んでいておもしろいが、平成 14（2002）年のノーベル化学賞を受賞した田中耕一氏は、『生涯最高の失敗』（朝日選書）で、一躍「話題の人」となったことは記憶に新しい。失敗がノーベル賞につながるという捲土重来の実例という意味でも、児童・生徒らに紹介し、失敗（つまずき）を恐れず、くさらずに、明日を目指して前向きに努力するすばらしさを訴えかけてほしいものである。

（わかい・やいち = 上越教育大学大学院教授・附属図書館長）

●最新刊好評発売中！ 星野昌治・廣田敬一【編】 A5判 200頁・定価 2,520円 教育開発研究所

## 新教育課程の授業戦略No.2『理数教育充実への戦略』

■好評発売中！ 免許状更新講習、「指導改善研修」、新教育課程への移行等の対応は万全か！

『教員の養成・免許・採用・研修』若井彌一編著 A5判 370頁定価 3,570円